

石川県文化財保護審議会の審議結果について

1 令和3年11月29日（月）午後3時から開催された「石川県文化財保護審議会（会長 水野 一郎）」において、石川県教育委員会から諮問された次の案件について、「保存する価値を有すると認め、石川県指定文化財に指定することが適当である。」旨の答申があった。

- ・有形文化財（彫刻） もくぞうずいしんざぞう 「木造随神坐像」
- ・有形文化財（考古資料） さいねん みなみしんぼいせきしゅつどひん 「西念・南新保遺跡出土品」

2 今回の答申案件については、今後開催される石川県教育委員会会議に付議され、議決が得られれば、県公報で告示し、正式に県指定文化財となる。

3 今回の答申案件を加えると、県指定有形文化財は242件となり、県指定文化財の総数は353件となる。

もくぞうずいしんざぞう
木造随神坐像

- 1 種 別 有形文化財（彫刻）
- 2 員 数 2 軀 1 対
- 3 所 在 地 中島お祭り資料館・お祭り伝承館
(七尾市中島町横田 1 部 1 4 8 番地)
- 4 所 有 者 久麻加夫都阿良加志比古神社
(七尾市中島町宮前ホ部 6 8 番地 1 の 1)
- 5 年 代 鎌倉時代
- 6 概 要

本像は久麻加夫都阿良加志比古神社の薬師社に安置されていた一対の随神像である。

弘安 6 年（1 2 8 3）に神社の社殿が修造された棟札が残り、社殿に続いて門が建立された時に本像も造られたと想定されている。表面の風化が著しく、これらがかつて、門に安置されていたことを示すものである。

両像ともに巾子冠^{こじかん}を戴き、袍^{ほう}を着て、太刀^はを佩き、笏^{しゃく}を持ち、椅子に坐す姿である。現存の太刀、笏は後補である。針葉樹材^{いちぼくづくり}の一木造^{うちぐり}で、内刳は施されていない。頭軀幹部を一材とするが、顔は前部で割り、玉眼^{ぎよくがん}を内側から嵌入^{かんにゅう}し、両肩、膝前^{くつ}、脊部^はを矧ぎ寄せている。像 1 は顔をやや左に向け、右手に笏を持ち、両脚を垂下して坐る。像 2 は顔を正面に向け、腹前に両手で笏を構え、左脚を垂下し右脚を左太ももに添えるように坐る。両像とも彩色はほとんど剥落しているが、四肢のつながりが自然で、衣のしわは体の動きに応じて刻まれ、その質感をよく表している。

本像は石川県内の随神像の中でも技術・造形とも優れており、有形文化財に指定して保存を図ることが必要である。

木造随神坐像



像 1



像 2

※写真では笏は持っていないが、
展示時は笏を持つ。



像 1 の拡大



像 2 の拡大

さいねん みなみしんぼ
西念・南新保遺跡出土品

- 1 種 別 有形文化財（考古資料）
- 2 員 数 600点
- 3 所 在 地 金沢市埋蔵文化財センター
（金沢市上安原南60番地）
金沢市埋蔵文化財収蔵庫
（金沢市新保本5丁目48番地）
- 4 所 有 者 金沢市
- 5 年 代 弥生時代中期～後期
- 6 概 要

西念・南新保遺跡は、金沢市の沖積平野の微高地に立地する弥生時代から中世にかけての複合遺跡である。昭和55年度から平成元年度にかけて金沢市教育委員会が発掘調査を実施し、弥生時代の遺構として水路や堰、竪穴建物・平地建物・掘立柱建物等の建物跡、井戸跡、方形周溝墓・土坑墓などが発見され、当該時代の土器、木器、石器、金属器等が出土しており、農耕を生業とした加賀北部の中核的な集落と位置付けられている。

土器は、壺、甕、鉢、高杯、器台、蓋等があり、保存状態が良好で、弥生時代中期後半から後期（紀元前1世紀～後2世紀）にかけての基準的資料として高く評価されている。また、「鹿」や「建物」を描いた絵画土器は、豊作を願う弥生時代の精神世界の一端を示す資料である。

木器は、農具、容器、楽器、祭祀具、紡織具、武器等があり、木工技術の高さを示す資料である。農具では鋤、鋤、竪杵等、容器では桶、高杯等があり、中でも高杯は、杯部外面に六葉の浮き彫りがあり、全体を赤彩した後に杯部内面に黒漆を施した精巧品であり、酷似した資料が出土している山陰との交流を示し、特筆される。楽器では琴が3点あり、県内初例である。祭祀具では舟形、武器形、渦巻文を施す装飾板等がある。

石器は、農具・工具では石鋤、石包丁、石斧等、武器では石鏃、石剣等がある。金属器は、工具類では鉄製ヤリガンナ、ノミ等が、祭祀具では銅鏡、武器類では銅鏃、鉄剣等がある。また、装身具としては、石製の勾玉、管玉やガラス製の小玉等があり、前者には未成品や原石が出土していることから、当遺跡で製作されていたものと考えられる。

以上の多種多様な出土品は、北陸の弥生時代中期から後期にかけての生活・技術・交流・文化を良く知ることができる代表的な考古資料であり、有形文化財に指定して保存を図るものである。

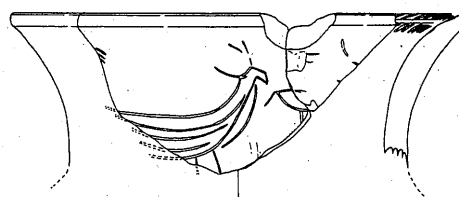
西念・南新保遺跡出土品 土器



弥生時代後期の土器



絵画土器（鹿）



絵画土器（鹿）の実測図

西念·南新保遺跡出土品 木器



桶



高 杯



桶（小型）



琴



装 飾 板

西念・南新保遺跡出土品 金属器等



石鏃（磨製）



銅 鏃



鉄劍（短劍）



勾 玉



銅 鏡



管 玉